

Q 平成25年度の種もみについて、ばか苗が非常に多かったのは、どうしてでしょうか。また、防止する方法をとってもらいたいです。

A 消毒種子はヘルシード乳剤を吹き付けしている種子になりますので、種子表面に付着した薬剤が浸種後水に溶けだして消毒効果を発揮いたします。25年度は種子消毒時期が低温影響により、浸種開始後2日間の薬液温度10～15℃を保てない状況で薬剤効果が低下したため、ばか苗病発生を助長したものと考えられます。また、浸種開始して2日間は、水温を保ち、種子袋をゆすったり、水のかげ流し、循環や交換しないようにして下さい。

Q ホバークラフトによる散布については助かりました。使用する農薬の種類は増やすことができないのでしょうか。

A ありがとうございます。使用農薬についてはフロアブル剤であればホバークラフトで散布できます。初期剤：農将軍フロアブル、草笛フロアブル、一発剤：メガゼータフロアブル、ボデーガードフロアブル等がありますが今後は使用する農薬の効果を確認しながら増やしてまいります。

Q 今年はみょうがが不作で、対策としてリドミル粒剤以外の農薬はないのでしょうか。

A 6月は高温干ばつ、7月は一転して長雨、8月上旬の暑さの影響により葉が大きくなれずに根茎腐敗病も発生した圃場が多くありました。また、みょうが根茎腐敗病対策としてリドミル粒剤、ランマンフロアブル、ユニホーム粒剤ありますので使用時期・使用方法につきましては営農指導員へご相談ください。

Q 肥料の予約注文書で、特別価格について明示できないのでしょうか。

A コーポレーション一発27、高度化成特号14価格につきましては、組合員へ安価で供給するため仕入れ先と交渉中です。価格につきましては、特別価格銘柄として他店に負けない価格を提示いたします。



Q ニツ井地区でも1回目の無人ヘリ防除に殺虫剤を入れていただきたいです。

A 無人ヘリ散布については、旧市町村ごとの防除協議会で使用薬剤・散布時期を決定しておりますので、ニツ井地区病害虫防除協議会へ働きかけてまいります。

Q あきたeコロライスに該当するために、どのような農薬の基準があるのでしょうか。

A あきたeコロライス要件として「主食用うるち米」で「JA米」であること。秋田県が示している慣行栽培と比較して、使用農薬成分回数を半分（10成分）以下に抑えた減農薬栽培米です。なお、農薬使用成分回数が半分（10成分）以内であっても、初期除草剤の移植前使用は絶対に行わないことになっております。取り組む場合は、営農指導員へご相談下さい。

Q ここ数年、除草剤の効果が薄れ、雑草が増えてきているような気がします。効果のある薬剤や散布体系について指導してほしいです。

A 除草剤の効果を発揮するには、水を一定期間保つ必要があります。初期剤、一発剤（アピロキリオMX・センイチ粒）等の新剤も実証圃場で試験を行い、効果のある除草剤を採用しておりますので営農資材注文書（水田除草体系）にも記載しておりますが、営農指導員・経済渉外担当者へお気軽にご相談下さい。



その他

Q 農機展示会を兼業農家のために土・日曜日に開催してほしいです。

A 今後は、メーカーと協力して、土曜日に開催できるよう努めてまいります。



Q JAで田植えから稲刈りまで請け負う（小作）体制を作ってほしい。そのような体制が確立されると今以上に米が集まるのではないのでしょうか。

A 現在、農地集積円滑化団体が行政にあり、農地の出し手、受け手を管理しております。また、「人・農地プラン」「JA地域営農ビジョン」を整備し、体制を整えており、JAもその一員として担い手への斡旋を図っております。